

「心の扉」は開けておく ～ 言葉に耳を傾ける ～

2026年5月23日 順天堂大学に寄り、早稲田大学エクステンションセンター 中野校での講座【がんと生きる哲学 医師との対話を通して『がん』と生きる方法を考える】に赴いた。

【『がん哲学』提唱者の医師であり、新渡戸稲造(1862-1933)研究の第一人者でもある著者が 厳選。逆境に立ち向かう者へ40のメッセージ。『新渡戸稲造 壁を破る言葉 ～ 逆境に立ち向かう者へ40のメッセージ～』（三笠書房）（添付）を 受講者に『音読してもらい 質問を受けながら 進める講座』である。】と紹介されている。今回は、【4章『いかに「命を燃やす」か?』の『この章のはじめに』、『31節： 苦しくても「心の扉」は開けておくこと ～ 人生の価値は「最後の五年間」で決まる～』 『32節： 「それでも笑う」ことが大事である ～ 「笑い」が幸運の女神を味方にしてくれる～』 『33節： 大事なのは「終着点」ではなく、「旅の途中」である ～ 人生は「今日からだ」と思えば、いくらでもやれることがある～』】の箇所を 受講者に音読してもらい、多数の質問もあり 大変有意義な充実した時であった。まさに『良書を読み、有益な話を聞き、心の蔵を豊かにする』である。

その後、筆者は『中野駅 → 御茶ノ水駅 → 秋葉原駅 → つくば駅』に向かった。茨城県の『つくば中央公園レストハウス』での『がん哲学外来 ～ メディカルカフェつくば～』（照井美穂氏、溝井幸子氏、安達修一先生 主催）で、照井美穂氏による司会で、講演『言葉と出会い ～ 人と出会う場～』（添付）の機会が与えられた。【『メディカルカフェつくば』は、がんと向き合う中で生まれる想いや問いを 分かち合う対話の場です。『誰かの言葉に耳を傾けること』&『自分の気持ちに気づくこと』を大切にしています。お茶を飲みながら 医療の場とは少し違う“こころを整える時間”を過ごしてください。】と記載されていた。

筆者が、到着前に、参加者は 映画『がんと生きることばの処方箋』を鑑賞され、『グループに分かれてお話し』が持たれたようである。会場は、多数の参加者で、講演後 複数の質問も寄せられた。皆様と『野に咲く花のように』（ダカーポ）を合唱し、溝井幸子氏の『閉会のことば』で終了した。安達修一先生が、『つくば駅』まで送って頂いた。大変貴重な【『中野駅 → 御茶ノ水駅 → 秋葉原駅 → つくば駅』の1日の旅】となった。

つくばのがんカフェレモンテラス

言葉と出会い 人と出会う場

—がん哲学外来—
メディカルカフェつくば

日時 2026
5/23 13:00
土 ~15:30

定員 先着 **20名** 費用 **無料**

会場 つくば中央公園レストハウス
TXつくば駅前A2出口より徒歩4分

主催：一般社団法人Histar's Now
メディカルカフェつくば
後援：一般社団法人がん哲学外来

特別
ゲスト



樋野興夫 先生

医学博士 順天堂大学名誉教授
一般社団法人がん哲学外来名誉理事長
医療現場と患者の間にある“隙間”を対話で
埋める「がん哲学外来」を全国に展開
し、がんと向き合う方へ「言葉の処方箋」を贈る医師。著書「いい覚悟で生きる」「病気は人生の夏休み」など

メディカルカフェつくばは、がんと向き合う中で生まれる想いや
問いを分かち合う対話の場です。誰かの言葉に耳を傾けること
自分の気持ちに気づくことを大切にしています。お茶を飲みながら
医療の場とは少し違う“ここを整える時間”を過ごしてください

お問い合わせはこちら

レモンテラス事務局・メディカルカフェつくば担当
lemonterasusu2024@gmail.com

事前お申し込み
フォームから

